

平成27年度

全日本音楽教育研究会中学校部会

調査研究 報告書

平成28年3月

全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究部

平成27年度全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究集計結果について

全日本音楽教育研究会中学校部会
調査研究部長 角 康 宏
(葛飾区立小松中学校長)

本研究会の調査研究につきましては、全国支部長の皆様をはじめ各都道府県の音楽科の先生方に御協力いただきましたことに、心より御礼申し上げます。

この度、全国の先生方から回収した調査結果の集計がまとまりましたので本冊子にて御報告いたします。集計結果の読み取り・分析を行い全国の音楽科の先生方に活用できる資料としてまとめました。本資料を御活用いただき、授業改善に役立てていただければ幸いです。

平成27年度全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究集計結果

- 1 調査内容 全国各支部の協力を得て音楽科の現状について質問紙による調査を行い、調査結果を集計分析する。
- 2 調査名 「中学校音楽科学習指導要領を振り返って」
- 3 調査目的 本調査は、質問紙調査により中学校音楽科学習指導要領（平成20年3月文部科学省）を振り返って、課題を明確にして、指導改善、授業力向上に役立てることを目的として実施する。
- 4 調査規模 北海道、東北、関東、東京、東海北陸、近畿、中国、四国、九州各地域の全49支部から任意で抽出した10校以上の回答を協力依頼する。
予定サンプル数 10校×49支部＝490校以上
- 5 調査期間 平成27年7月1日（水）～平成27年8月10日（月）必着
- 6 調査回収 212校
回収率 43.2%
無効回答なし

7 調査結果の主な内容と分析・考察

(1) 95%以上の学校が肯定的な回答(AまたはBを選択)を示した学習指導要領の項目

第1 目標 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。	99%
第2 各学年の目標及び内容〔第1学年〕 1 目標 (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。	99%
(4) 表現教材は、次に示すものを取り扱う。 ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒にとって平易で親しみのもてるものであること。	96%
(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。 ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。	97%
[共通事項]イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。	96%
〔第2学年及び第3学年〕1 目標 (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。	99%
A 表現 (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。 ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。	99%
ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	95%
(4) 表現教材は、次に示すものを取り扱う。 ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒の意欲を高め親しみのもてるものであること。	98%
イ 歌唱教材には、次の観点から取り上げたものを含めること。 (ア) 我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの	96%
B 鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。 ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。	96%
[共通事項] (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。 ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。	96%
イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。	98%
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1. 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫すること。	96%
共通教材 「花」武島羽衣 作詞 滝廉太郎 作曲	98%
イ 変声期について気付かせるとともに、変声期の生徒に対しては心理的な面についても配慮し、適切な声域と音量によって歌わせるようにすること。	97%
拍(97%)、拍子(98%)、フレーズ(95%)、rit.(100%)、a tempo(98%) pp(99%)、ff(100%)、dim.(97%) フェルマータ(99%)、テヌート(97%) 三連符(95%)	

(2) 50%以上の学校が否定的な回答（CまたはDを選択）を示した学習指導要領の項目

(3) 創作の活動を通して、次の事項を指導する。 イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。	69%
(イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるもの	51%
(3) 創作の活動を通して、次の事項を指導する。 ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。	57%
イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。	64%
ウ 相対的な音程感覚などを育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。	66%
(5) 創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。	55%
イ 適宜、自然音や環境音などについても取り扱い、音環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせたりするなど、生徒が音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫すること。また、コンピュータや教育機器の活用も工夫すること。	59%

(3) 分析及び考察

次期学習指導要領改訂を前に現行中学校音楽科学習指導要領（平成20年3月 文部科学省）を振り返り全国各支部のご協力のもと大変貴重なデータを得ることができました。(1)の通り音楽科の目標を達成でき、生徒に身に付けるべき音楽の力を指導できたと全体の99%以上の学校が回答しています。また、鑑賞の指導事項(1)アや歌唱の内容(1)ア、ウなどは、ほぼすべての学校で肯定的な回答を得ています。このことは、学習指導要領の趣旨を生かした表現「歌唱」、「鑑賞」の授業が全国的に定着でき、生徒に身に付けるべき力を指導できているという結果が確認できました。

現行の学習指導要領から始まった[共通事項]に関しても、多くの先生方が肯定的な回答をしており、十分に定着していることが伺えました。また、共通教材では「花」が圧倒的に定着しているほか、強弱記号の *ff* や *rit.* はすべての先生方が肯定的な回答を示すという集計結果でした。

一方、創作の授業に対する先生方の課題も浮き彫りになりました。特に「音素材を感じ取り（生かし）、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」や「言葉や音階などの特徴を感じ取り（生かし）表現を工夫して旋律をつくること」などに課題があることが判りました。

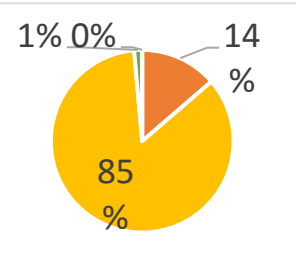
また、移動ド唱法は多くの先生方が指導できていない現状が明らかとなりました。さらに自然音や環境音の取り扱いや音楽と生活と社会のかかわりやコンピュータや教育機器の活用などに課題があることが判りました。

8 調査結果の詳細と分析・考察

次項より掲載

平成27年度全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究部
「中学校音楽科学習指導要領を振り返って」調査質問紙回答集計表

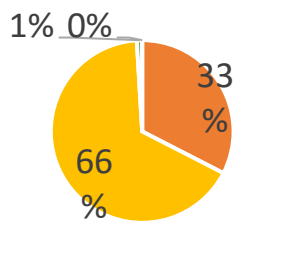
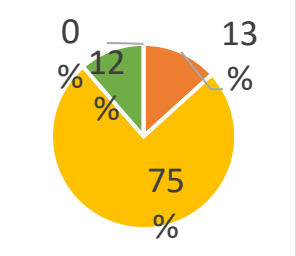
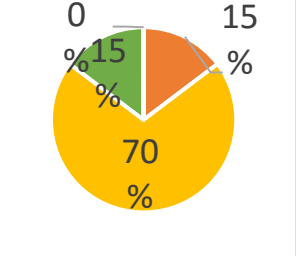
第1 目標

	A	B	C	D
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。	29	180	3	0
<p>【データの読み取り】 AとB合わせて99%になり、概ね達成していると判断できる。概ね達成できている。CDは1%である。回答のあった殆ど全ての学校において、中学校音楽科学習指導要領をもとに、音楽科の教科目標達成に向けて、授業の構築をしていることが分かった。</p> <p>【分析考察】 音楽全体を広く、そして生涯にわたる範囲での大目標であるため、義務教育のまとめとして概ね達成できている。音楽科の教科目標達成に向けて授業づくりに奮闘していることが分かった。大切な事は、学習指導要領を正しく解釈し、目標達成に向けてねらいを定め、生徒の実態を考慮しながら分かり易い授業を構築し、生徒の音楽に対する興味・関心を高めながら学力を身に付けていく授業を行うことだ。中学校音楽科の授業時数が激減している中、効率的で充実した授業を展開したい。また、その成果は、すぐに目に見えるものではなく、ここが情操教育の難しさでもある。</p>				

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

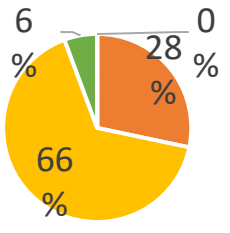
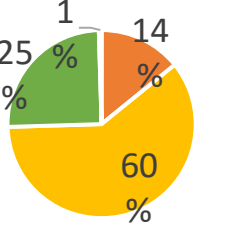
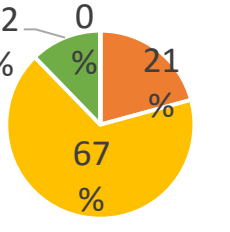
1 目標

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。	69	141	2	0
<p>【データの読み取り】 99%の学校が概ね達成している。Aの比率が比較的高く、概ね達成できている。CDは1%。 音楽科第1学年の目標達成に向け、回答された99%の先生方が音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てようとしていることが読み取れる。</p> <p>【分析考察】 ほとんどの学校で、楽しい体験を通して、興味関心を養うことができている。 音楽の楽しさと、実生活への結びつきを意図している目標であり、授業から学校生活へと中学生になって経験することの多い校内合唱コンクールなどもその達成への手掛かりになっているのではないかと。 生徒が生涯にわたって、音や音楽に対する「興味・関心」を持ち続けられるように、きっかけ作りを授業の中に多く作りたい。体験的な学習活動は有効である。2領域3分野に偏りのないバランスのとれた年間指導計画を作成し、それに沿って指導を実践していくことが、目標達成への近道である。</p>				
(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。	28	159	24	0
<p>【データの読み取り】 88%の学校が概ね達成している。全体としては概ね達成ではあるが、Cは12%であり、Aとはほぼ同じ割合である。 音楽科第1学年の目標達成に向け、回答された88%の先生方が多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てようとしているのが読み取れる。</p> <p>【分析考察】 表現の指導について、生徒一人ひとりの状況が違う中で、12%の学校が悩んでいる。 基礎的な表現の技能は身に付けていくが、創意工夫して表現することが達成への難しさではないだろうか。 教師主導型の教え込みの技術習得ではなく、生徒自らが考え、知覚・感受した多様な音楽表現の豊かさや美しさについて互いに意見交流しながら、基礎的な表現の技能を身に付け、音楽表現を創意工夫していく過程が大切になる。生徒同士や生徒と教師とのコミュニケーションを授業にどのように取り入れるかが大切になる。</p>				
(3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	31	149	31	0
<p>【データの読み取り】 85%の学校が概ね達成している。 音楽科第1学年の目標達成に向け、回答された85%の先生方が、多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てようとしているのが読み取れる。</p> <p>【分析考察】 主体的に鑑賞する能力の育成について、15%の学校で、能力の育成までに高まっていないと感じている。 多様な音楽のよさや美しさを味わうこと、音楽の多様性を授業に取り入れることは難しい課題である。生徒が幅広く主体的に、さまざまな国の生活に根付いてきた未知なる音楽やその音楽の背景となる文化・歴史とかかわらせながら、それぞれの音楽文化のよさを認め合える環境作りが大切である。</p>				

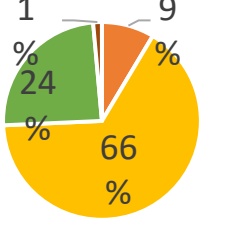
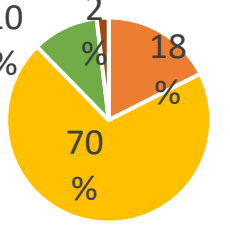
2 内容

A 表現

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。

	A	B	C	D
ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。	60	140	12	0
<p>【データの読み取り】 94%の学校が概ね指導できている。Cが6%ではあるが、概ね指導できている。 90%以上の学校において ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う」ことを授業で指導しているということが分かった。</p>	<p>【分析考察】 日々の授業の中で、充実した活動が行われている。さまざまな補助的教材の使用と、デジタル化の恩恵で内容や曲想の把握が指導しやすくなったのではないか。歌詞の内容や曲想について、どのような方法で生徒の意見を引き出し、生徒が知覚・感受したことを生徒同士、あるいは教師と生徒がどのように共有しているのか。自分の思いやイメージを追求し、その創意工夫のために友人とコミュニケーションをとりながら試行錯誤し、合わせて歌う活動が大切になる。</p>			
イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。	30	128	53	1
<p>【データの読み取り】 74%の学校が概ね指導している。Cが25%と4分の1となっている。 イ「曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌う」については、74%の学校が行っている結果となった。いわゆる西洋の頭声発声の歌い方のみの授業が成されているわけではないという結果になった。</p>	<p>【分析考察】 曲種に応じた発声ということが、少ない時間数の中で、取り組めていない。 曲種のとらえからそこに合った発声の違いは指導者自身もなかなか実践しにくいものではないか。 地域性や生徒の実態に合わせて、どのような音楽を教材として取り扱うのかをよく吟味する必要がある。ただ、CDを聴かせ、感想を言い合うだけでは、学習指導要領に示された指導とは言えないだろう。計画的に前後の題材の流れを意識しながら事前準備を行い、教員自身がまず体験してみることが必要である。</p>			
ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	44	142	26	0
<p>【データの読み取り】 88%の学校が概ね指導している。Cが12%ではあるが概ね指導できている。特にAが4分の1近い。 ウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う」指導内容について、88%の学校がすでに取り組んでいるという回答があった。</p>	<p>【分析考察】 合唱の取組が、ある程度充実している。 変声期の課題もあるが、同声合唱から混声合唱へとその響きの変化を感じながら授業へ取り組む姿が、感じられる。 「声部の役割」の役割について、各学校ではどのような定義づけをし、授業がなされているのだろうか。生徒と教師の間で、例えば「主役」と「脇役」などといった共通認識できる音楽の言葉を決めて、その音楽用語をツールの一つとして使えたと便利である。</p>			

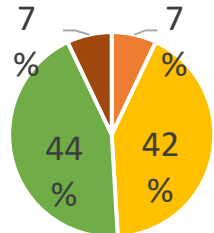
(2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。

	A	B	C	D
ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。	18	138	51	3
<p>【データの読み取り】 75%の学校が概ね指導している。 CDが4分の1をしめている。 ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏することは、75%の学校が実践しているという結果になった。</p>	<p>【分析考察】 器楽の場合、歌唱に比べて、苦手な生徒が多くなってきて、4分の1の学校で指導に苦勞していることがうかがえる。 歌詞がないところで、曲想がつかみにくい、また指導しにくいのではないか。さらに、奏法や技術の指導にかかる指導計画の中で、表現の工夫まで十分には指導できないことが考えられる。 器楽 アイ の指導事項、「曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること」は、「楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて」いないとできないことであり、どちらの事項も表裏一体となっている。アイ 両方の力が付いていないと、達成できない内容である。</p>			
イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。	37	148	22	4
<p>【データの読み取り】 88%の学校が概ね指導している。 CDが12%であり、概ね指導できている。 イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏することは、88%の学校が実践しているという結果になった。</p>	<p>【分析考察】 楽器の基礎的な奏法は身に付けられているが、12%の学校で、十分ではないと感じている。 授業で奏法を指導する楽器の種類は限られており、小学校からの指導の継続も含め、比較的基礎的な奏法は指導できている。 生徒の実態を踏まえて、楽器の種類や数を整えることも、指導内容や指導方法に関係してくるだろう。環境整備も大切になる。</p>			

	A	B	C	D
ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	16	115	75	4
<p>【データの読み取り】 62%の学校が概ね指導できている。が、38%の学校で指導できていない。CDで3分の1以上となっている。 ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏することは、62%の学校で実践しているという結果になった。</p>	<p>【分析考察】 生徒個々の表現ではなく、全体としてとらえて取り組む難しさが表れている。 器楽の活動の中で、声部を意識できる合奏などを授業に取り入れにくいのではないだろうか。また、授業時間数の関係でどこまでその合奏を深めていけるかも課題である。 歌唱の「声部の役割と全体の響き」と同じことが言える。「声部の役割」の役割について、各学校の生徒と教師の間で暗黙の定義づけをし、例えば「主役」と「脇役」などといった共通認識できる音楽用語を決め、それらをツールの一つとして授業で使うと便利である。</p>			
(3) 創作の活動を通して、次の事項を指導する。				
ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。	17	76	97	20
<p>【データの読み取り】 概ね指導している学校が44%と低い。CDで半数を超えている。 ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくることは、44%の学校で実践しているという結果になった。</p>	<p>【分析考察】 創作に関しては、時間数の関係や、取組そのものが難しいと感じている学校が多いと思われる。 創作の指導の難しさや取り組みにくさを示している。また、年間の指導計画の中で「創作」にかけることのできる時間数もここではかなり影響しているかと思われる。 アンケート結果から創作の実践は、他の領域・分野の指導事項に比べ、授業への導入率が低く、創作を敬遠している傾向がみられる。「簡単な旋律創作」では、「言葉とリズム」の関係を紐解いていければ、授業に取り入れやすい。</p>			
イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。	7	58	118	28
<p>【データの読み取り】 31%の学校が概ね指導している。 ABで3分の1以下である。 イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくることは、31%の学校で実践しているという結果になった。</p>	<p>【分析考察】 これも、アと同様、創作活動の難しさが表れていると考えられる。 前出アからも関連している。さらに創作の内容を具体的かつ次の段階をめざすことはなかなか指導できないと感じている。 イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取らせることは、減少する授業数の中で効率的かつ効果的に指導するために工夫を要する。また、評価に課題が残り、グループ創作になるとさらに難しい。反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくることは、総合的に音楽の力が大いに身に付くチャンスではあるが、今一歩踏み込めない現状であろう。</p>			

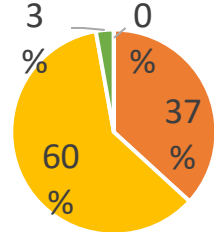
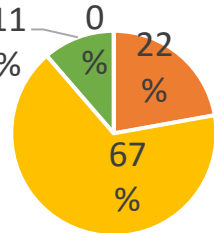
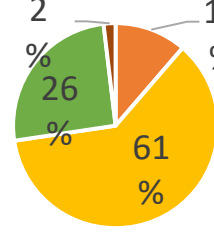
(4) 表現教材は、次に示すものを取り扱う。

ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒にとって平易で親しみのもてるものであること。	68	136	8	0
<p>【データの読み取り】 96%の学校が概ね配慮している。 Aがほぼ3分の1、CDが4%から、ほぼ配慮できている。 ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒にとって平易で親しみのもてる表現教材を96%の学校が実践しているという結果になった。</p>	<p>【分析考察】 基本教科書に取り上げられている曲についての設問であるので、多くの先生方が満足していると考えられる。 授業展開の中で生徒の活動状況から教材が選ばれている。 表現活動を通して、特定の地域や時代に偏ることなく様々な音楽にかかわることは、生徒自身の音楽的視野を広げるとともに多様な音楽文化についての理解を深めることにも繋がっていく。表現する喜びや充実感を味わうことのできる平易で親しみのもてるものを選択することが大切である。</p>			
イ 歌唱教材には、次の観点から取り上げたものを含めること。				
(ア) 我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの	77	123	10	2
<p>【データの読み取り】 94%の学校が概ね配慮している。 Aが3分の1を超え、CDが6%から、ほぼ配慮できている。 イ 歌唱教材として(ア)我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものを94%の学校が実践しているという結果になった。</p>	<p>【分析考察】 アと同様で、満足感が高いと思われる。 実際歌い継がれている我が国の歌があり、社会全体に親しまれていることだと思われる。 (後述の各校が選択している歌唱教材もあわせて参照のこと。)我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるものについては、生徒の育ってきた環境や経験値によってかなり差が出てくると思われる。場合によってはイメージできない生徒もいる。だからこそ、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるものや我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものを取り扱い、日本のよさを伝えたい。</p>			

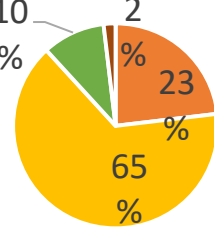
	A	B	C	D
(イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるもの	15	89	93	15
<p>【データの読み取り】</p> <p>49%の学校が概ね配慮している。配慮できている・不十分であるは半数・半数である。</p> <p>イ 歌唱教材として(イ)民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるものを49%の学校が実践しているという結果になった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>およそ半分の学校が満足できていない。地域性の差が大きいと考えられる。地域や学校、生徒の実態は千差万別であり、配慮しやすい状況(地域)とそうではない状況が感じられる。また、指導者の「伝統的な声」への経験も関係してくるのではないかと。</p> <p>50%に満たない結果が出ており、授業への導入に抵抗を感じている教師が多いことが分かる。「民謡、長唄など」と記述がされており、我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して伝統的な声の特徴を感じ取れるものを探しているうちに時間が過ぎてしまうことも考えられるため「民謡、長唄など」をとりあえず取り扱ってみるとよい。</p>			

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。	78	128	6	0
<p>【データの読み取り】</p> <p>97%の学校が概ね指導している。Aが3分の1以上、CDが3%で、概ね指導できている。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうことを実践している学校が97%であるという結果になった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>鑑賞のこの指導事項は、ほぼ指導できている。教材の選び方や参考教材の扱い方で、説明を加えることにより比較的指導がしやすい。音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを知覚・感受し、その感じとったことを自分の言葉で説明するなどして表現し合うことが鑑賞の活動の基本である。ワークシートに記述して終わりではない学校が殆どであった。</p>			
イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。	47	141	24	0
<p>【データの読み取り】</p> <p>89%の学校が概ね指導している。CDが11%で概ね指導できている。</p> <p>イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞することを実践している学校が89%であるという結果になった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>この項目は、指導できていない学校が少し増えている。その背景は欠くことのできない要素であることから参考資料も多様化している中で、指導が充実している。鑑賞の活動を通して、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞することを比較的多くの学校で実践していた。事前に教師は、音楽の特徴からその背景となる文化・歴史について準備しておく必要がある。音楽の特徴と結び付け、その音楽のよさを生徒自身に見つけさせることがねらいである。</p>			
ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。	24	130	54	4
<p>【データの読み取り】</p> <p>72%の学校が概ね達成している。CDが4分の1を超えている。</p> <p>ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞することを実践している学校が72%であるという結果になった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>伝統音楽に関しては、鑑賞の分野だけでなく、どの分野でも、他の項目より指導の充実感が低くなっている。諸民族の音楽の特徴は指導できても、そこから音楽の多様性に結び付けるのはまだ難しい。</p> <p>我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞することは教材を吟味する時点から難しさを感じる。世界中のどの音楽にもそれぞれ存在価値があり、その地域の人々に必要とされてきたものである。音楽の特徴からそれらの価値やよさを見つけ感じ取り、自分たちの生活に結び付けて、友人と共有できる授業を構築したい。</p>			

(2) 鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。

<p>【データの読み取り】</p> <p>88%の学校が概ね指導している。CD12%で、概ね取り扱っている。</p> <p>鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱っている学校が88%という結果となった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>教科書に載っている教材では十分ではないと感じている学校が、12%あることに注目したい。</p> <p>適切であるかどうかはその判断基準によるが、教科の情報交換などでこの結果になっているとも考えられる。地域や学校、生徒の実態に即し、尚且つ指導のねらいに適切なものを選択したい。そのことを理解していても、学校に1人配属の音楽科教師にとって、教材探しのための情報収集や教材の相談について、難しい面がある。効率的な学習を積み重ねたい。</p>		
--	--	--	---

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

	A	B	C	D
ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受すること。	52	146	14	0
<p>【データの読み取り】 93%の学校が概ね指導できた。 Aが4分の1近く、CDが7%で概ね指導できている。 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、〔共通事項〕ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受する実践を行っている学校は、93%であることが分かった。</p> <p>【分析考察】 表現と鑑賞の表裏一体の指導に関しては、相互作用が反映しているのか、達成感が高い。 授業の積み重ねでこれらは無理なく指導できるものである。 8つの音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成）をよりどころにして、要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受する授業が定着してきていると思われる。</p>				
イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。	49	154	9	0
<p>【データの読み取り】 96%の学校が概ね指導している。 Aが4分の1近く、CDが4%で概ね指導できている。 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、〔共通事項〕イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解することについて96%の学校が実践している結果となった。</p> <p>【分析考察】 アと同様で、表現活動からと鑑賞活動から、その両面からアプローチをすることで、達成感が高くなる。 前出アと関連しており、用語や記号は音楽活動の積み重ねから自然に理解していくものである。 8つの音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成）の意味だけを形式的に知識として理解するのではなく、音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、授業の流れの中で音楽活動を通して理解することが大切である。</p>				

〔第2学年及び第3学年〕

1 目標

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。	70	139	3	0
<p>【データの読み取り】 99%の学校が概ね達成している。 Aは3分の1であり、概ね達成できている。CD1%。 音楽科第2第3学年の目標達成に向け、回答された 99%の先生方が音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てようと実践しているのが読み取れる。</p> <p>【分析考察】 第1学年と同様に達成感が高い。 音楽の楽しさと、実生活への結びつきを意図している目標であり、授業から学校生活へと定着している校内合唱コンクールなどもその達成への手掛かりになっているのではないかと。 生徒が生涯にわたって、音や音楽に対する「興味・関心」を高められるような、きっかけ作りを授業の中に多く作りたい。体験的な学習活動は有効である。2領域3分野に偏りのないバランスのとれた年間指導計画を作成し、それに沿って指導を実践していくことが、目標達成の近道であると考えられる。</p>				
(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。	35	164	13	0
<p>【データの読み取り】 94%の学校が概ね達成している。 CD6%と、概ね達成できている。 音楽科第2第3学年の目標達成に向け、回答された94%の先生方が、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高めようと実践しているのが読み取れる。</p> <p>【分析考察】 第1学年と比べると、概ね達成している学校が増えていることで、生徒の成長が感じられる。 今までの積み重ねから、身に付ける基礎的なものからさらにその技能を伸ばしていく様子がうかがわれる。 教師主導型の教え込みの技術習得ではなく、生徒自らが考え、知覚・感受した多様な音楽表現の豊かさや美しさを互いに意見交流しながら表現の技能を身に付け、音楽表現を創意工夫していく過程が重要になる。生徒同士や生徒と教師とのコミュニケーションを授業にどのように取り入れるかが大切である。</p>				
(3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。	29	163	20	0
<p>【データの読み取り】 91%の学校が概ね達成している。 CD9%と、概ね達成できている。 音楽科第2第3学年の目標達成に向け、回答された91%の先生方が、多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高めようと実践しているのが読み取れる。</p> <p>【分析考察】 これも、第1学年に比べると達成感が高くなっている。 音楽のよさや美しさを味わう段階から、その理解を自ら深めたいという気持ちにつながっていく。 多様な音楽のよさや美しさを味わうこと、音楽の多様性を授業で取り扱うことは難しい課題だ。生徒が幅広く主体的に、さまざまな国の生活に根付いてきた未知なる音楽やその音楽の背景となる文化・歴史とかかわらせながら、それぞれの音楽文化のよさを認め合える環境作りが大切になる。</p>				

2 内容

A 表現

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。

	A	B	C	D
ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。	80	129	3	0
<p>【データの読み取り】 99%の学校が概ね指導できている。 ABで99%。 99%の学校においてア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うことを授業で行っているということが分かった。</p> <p>【分析考察】 第1学年に比べ、達成感が高く、99%と言う数字は大変高いと考える。 味わうことからふさわしい表現へと授業の積み重ねが指導につながる。 歌詞の内容や曲想について、どのような方法で生徒の意見を引き出し、生徒が知覚・感受したことを生徒同士、あるいは教師と生徒がどのように共有しているのか。さらには、曲にふさわしい歌唱表現を追求し、その創意工夫のために友人とコミュニケーションをとりながら試行錯誤しながら合わせて歌う活動が大切になる。</p>				
イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。	39	145	27	1
<p>【データの読み取り】 86%の学校が概ね指導できている。 CD14%である。概ね指導できていると考える。 イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌う指導事項は、86%の学校が行っている結果となった。</p> <p>【分析考察】 第1学年の74%から12%もあがり、生徒の成長が見られる。 理解した中でその特性を生かす表現だが、授業の積み重ねが指導につながる。 言葉の特性をどのように捉え、どのように曲種に応じた発声指導をするのかが問われる事項である。 地域性や生徒の実態に合わせて、どのような音楽を教材として取り扱うのかをよく吟味する必要がある。計画的に前後の題材の流れを意識しながら事前準備を行うことが必要である。</p>				
ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	55	146	11	0
<p>【データの読み取り】 95%の学校が概ね指導している。 ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌う指導事項について、95%の学校が取り組んでいるという回答があった。</p> <p>【分析考察】 この項目も同様に88%から95%に充実感が高くなっている。 「声部の役割」の役割について、各学校ではどのような定義づけをし、授業がなされているのだろうか。生徒と教師の間で、例えば「主役」と「脇役」などといった共通認識でできる音楽の言葉を決めてツールの一つとして使えたと便利である。</p>				

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。

	A	B	C	D
ア 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。	25	135	47	4
<p>【データの読み取り】 76%の学校が概ね指導している。 CDが4分の1を超えている。 ア 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏することは、76%の学校が実践しているという結果になった。</p> <p>【分析考察】 第1学年と同様に、歌唱に比べて、器楽はできる生徒とできない生徒の差が如実に表れていると考える。 曲想という抽象的なものから表現を工夫するには、いかにこれまで積み重ねてきたものがあるかが影響する。奏法指導や基礎的な演奏力がこれまでにどれだけ身に付いたかも関わってくる。 器楽 アイ の指導事項、「曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること」は、「楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして」いないとできないことであり、どちらの事項も表裏一体となっている。アイ 両方の力が付いていないと、達成できない内容である。</p>				
イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。	34	146	28	4
<p>【データの読み取り】 94%の学校が概ね指導している。 CD15%である。概ね指導できていると考える。 イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏することは、85%の学校で実践しているという結果になった。</p> <p>【分析考察】 高学年になるほど、基礎的な奏法の必要性が高くなって、指導の達成感が下がったと考える。 これまでの積み重ねがその演奏を大きく左右する。 歌唱表現と同じことが言える。曲にふさわしい表現をするために必要な技能(基礎的な奏法)を習得させることが大切である。楽器の特徴を指導者が的確に把握し、生徒の技能に応じた個別の指導を図ることが大切である。</p>				

	A	B	C	D				
ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	13	128	65	5				
<p>【データの読み取り】 67%の学校が概ね指導している。 CDで3分の1となっている。 ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏することは、67%の学校で実践しているという結果になった。</p> <p>【分析考察】 あまり指導できていない学校が、第1学年と比べ38%から33%に減っているのが評価できる。 器楽の活動の中で、声部を意識できる合奏などを授業に取り入れにくいのではないだろうか。また、授業時間数の関係でどこまでその合奏を深めていけるかも課題である。 歌唱の「声部の役割と全体の響き」と同じことが言える。「声部の役割」の役割について、各学校の生徒と教師の間で定義づけをし、例えば「主役」と「脇役」などといった共通認識できる音楽用語を決め、それらをツールの一つとして授業で使うと便利である。</p>	<table border="1"> <tr><td>61%</td></tr> <tr><td>31%</td></tr> <tr><td>6%</td></tr> <tr><td>2%</td></tr> </table>				61%	31%	6%	2%
61%								
31%								
6%								
2%								

(3) 創作の活動を通して、次の事項を指導する。

	A	B	C	D				
ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。	15	74	95	21				
<p>【データの読み取り】 43%の学校が概ね指導している。 CDで半数を超えている。 ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくることは、43%の学校で実践しているという結果になった。</p> <p>【分析考察】 57%の学校で、指導に取り組めていない。第1学年と比べても1%下がっている。 引き続きこの段階でも創作への課題が明らかである。 アンケート結果から創作の実践は、他の領域・分野の指導事項に比べ、授業への導入率が低く、創作を敬遠している傾向がみられる。「旋律創作」では、ルールや制約を決めてパターン化できれば授業に取り入れ易くなる。</p>	<table border="1"> <tr><td>36%</td></tr> <tr><td>47%</td></tr> <tr><td>10%</td></tr> <tr><td>7%</td></tr> </table>				36%	47%	10%	7%
36%								
47%								
10%								
7%								
イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。	9	67	105	31				
<p>【データの読み取り】 44%の学校で概ね指導している。 CDで64%という状況。 イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくることは、36%の学校で実践しているという結果になった。</p> <p>【分析考察】 この項目も、指導できていない学校が多く、創作については、おおきな課題を抱えている。 さらに内容が深まっていく中で、創作活動への課題は解決されていない。 イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かすことは、減少する授業数の中で効率的かつ効果的に指導するために工夫を要する。また、評価に課題が残る、グループ創作になるとさらに難しい。反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくることは、総合的に音楽の力が身に付くチャンスではあるが、今一歩踏み込めない現状であろう。</p>	<table border="1"> <tr><td>32%</td></tr> <tr><td>49%</td></tr> <tr><td>15%</td></tr> <tr><td>4%</td></tr> </table>				32%	49%	15%	4%
32%								
49%								
15%								
4%								

(4) 表現教材は、次に示すものを取り扱う。

	A	B	C	D				
ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒の意欲を高め親しみのもてるものであること。	65	142	5	0				
<p>【データの読み取り】 98%の学校が概ね配慮している。 Aがほぼ3分の1、CD2%から、ほぼ配慮できている。 ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒の意欲を高め親しみのもてる表現教材を96%の学校が実践しているという結果になった。</p> <p>【分析考察】 生徒の心をとらえる教材を多く取り入れることで、意欲を高めることができていると考える。 これまでの積み重ねがいかされている。 表現活動を通して、特定の地域や時代に偏ることなく様々な音楽にかかわることは、生徒自身の音楽的視野を広げるとともに多様な音楽文化についての理解を深めることにも繋がっていく。表現する喜びや充実感を味わうことのできる平易で親しみのもてるものを選択することが大切である。</p>	<table border="1"> <tr><td>67%</td></tr> <tr><td>31%</td></tr> <tr><td>2%</td></tr> <tr><td>0%</td></tr> </table>				67%	31%	2%	0%
67%								
31%								
2%								
0%								
イ 歌唱教材には、次の観点から取り上げたものを含めること。 (ア) 我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの	91	112	7	2				
<p>【データの読み取り】 96%の学校が概ね配慮できている。 Aが半数近い。ほぼ配慮できている。 イ 歌唱教材に (ア) 我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものを96%の学校が実践しているという結果になった。</p> <p>【分析考察】 我が国の文化や日本語を大切に扱っていることがうかがえる。 これまでの積み重ねがいかされている。 (後述の各校が選択している歌唱教材もあわせて参照のこと。) 我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるものについては、生徒の育ってきた環境や経験値によってかなり差が出てくると思われる。場合によってはイメージできない生徒もいる。だからこそ、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるものや我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものを取り扱い、日本のよさを伝えたい。</p>	<table border="1"> <tr><td>43%</td></tr> <tr><td>53%</td></tr> <tr><td>3%</td></tr> <tr><td>1%</td></tr> </table>				43%	53%	3%	1%
43%								
53%								
3%								
1%								

	A	B	C	D
(イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるもの	19	112	73	7
<p>【データの読み取り】</p> <p>62%の学校が概ね配慮できている。ABで62%。</p> <p>イ 歌唱教材として(イ)民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるものを62%の学校が実践しているという結果になった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>第1学年に比べ、配慮ができていない学校が、51%から38%になり、高学年に向けて配慮ができていく学校が多くなっている。</p> <p>今までの積み重ねがいかされ、若干第1学年の同項目より配慮できている。</p> <p>1年ではなく2、3年生で授業で取り扱う教師が半数以上いることが分かった。「民謡、長唄など」と記述がされており、我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して伝統的な声の特徴を感じ取れるものを探しているうちに時間が過ぎてしまうことも考えられるため「民謡、長唄など」をとりあえず取り扱い少しずつ改良していくとよい。</p>			

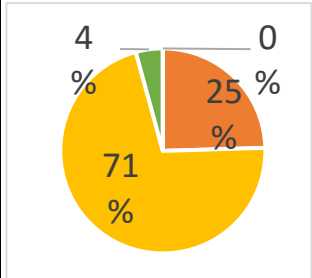
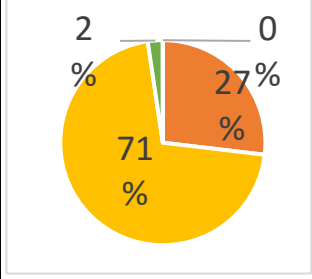
B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。	67	137	8	0
<p>【データの読み取り】</p> <p>96%の学校が概ね指導できている。CD4%。概ね指導できている。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうことを実践している学校が96%であるという結果になった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>鑑賞の充実が図られていることがうかがえる。根拠をもって というように理解要素が増していくが、これまでの積み重ねがいかされている。</p> <p>1年生の鑑賞の授業を踏まえて、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、その知覚・感受したことを自分の言葉で根拠をもって批評し合うことが鑑賞の活動の基本である。ワークシートに記述して終わりではない学校が殆どであった。</p>			
イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。	58	141	13	0
<p>【データの読み取り】</p> <p>94%の学校が概ね指導できている。CD6%。概ね指導できている。</p> <p>イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞することを実践している学校が94%であるという結果になった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>鑑賞については、様々な工夫がなされていると考えられる。理解要素が増しているが、これまでの積み重ねがいかされている。</p> <p>鑑賞の活動を通して、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞することを多くの学校で実践していた。事前に教師は、音楽の特徴からその背景となる文化・歴史について準備しておく必要がある。音楽の特徴と結び付け、その音楽のよさを生徒自身に見つけさせることがねらいである。</p>			
ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。	29	152	31	0
<p>【データの読み取り】</p> <p>86%の学校が概ね指導できている。Bが72%という高比率である。</p> <p>ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞することを実践している学校が86%であるという結果になった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>全くできていない学校がなくなり、Cも学年が上がるにつれて減ってきて、指導の効果が上がってきているととらえられる。理解要素が増しているが、これまでの積み重ねがいかされ、第1学年と比べA・Bが高い比率となった。</p> <p>我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞することは教材を吟味する時点から難しさを感じる。世界中のどの音楽にもそれぞれ存在価値があり、その地域の人々に必要とされてきたものである。音楽の特徴からそれらの価値やよさを理解し、自分たちの生活に結び付け、友人と共有できる授業を構築したい。</p>			
(2) 鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。	55	141	16	0
<p>【データの読み取り】</p> <p>92%の学校が概ね取り上げている。鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱っている学校が92%という結果となった。</p>	<p>【分析考察】</p> <p>学年が上がるにつれて、鑑賞内容も、充実する傾向がある。</p> <p>地域や学校、生徒の実態に即し、尚且つ指導のねらいに適切なものを選択したい。そのことを理解していても、学校に1人配属の音楽科教師にとって、教材探しのための情報収集や教材の相談について、難しい面がある。効率的な学習を積み重ねたい。</p>			

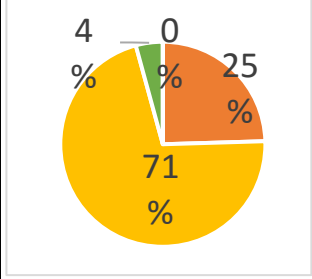
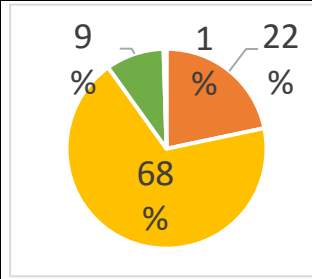
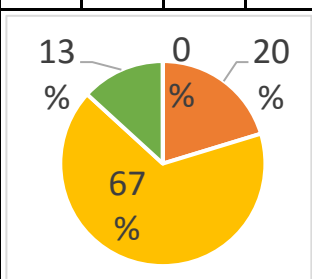
〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

		A	B	C	D
ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じることを。		52	151	9	0
【データの読み取り】 96%の学校が概ね指導できている。 Aが4分の1、CD4%で概ね指導できている。 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、〔共通事項〕ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じる実践を行っている学校は、92%であることが分かった。	【分析考察】 表現と鑑賞の表裏一体の指導に関しては、相互作用が反映しているのか、達成感が高い。 第1学年に引き続き、授業の系統的な積み重ねがこの結果をだしている。 8つの音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成）をよりどころにして、要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じる授業が定着してきていると思われる。				
イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。		57	150	5	0
【データの読み取り】 98%の学校が概ね達成している。 Aが4分の1を超え、CD2%で概ね指導できている。「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、〔共通事項〕イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解することについて98%の学校が実践している結果となった。	【分析考察】 この項目もアと同様である。 8つの音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成）の意味だけを形式的に知識として理解するのではなく、音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、授業の流れの中で音楽活動を通して理解することが大切である。				

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1. 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

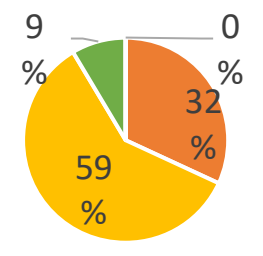
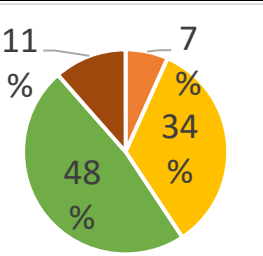
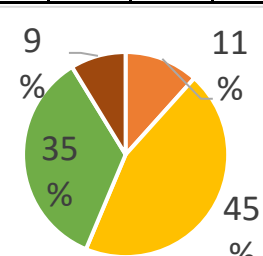
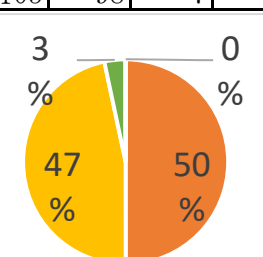
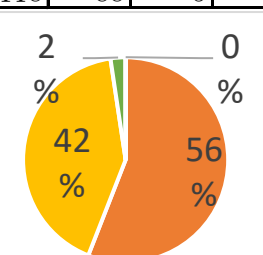
(1) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫すること。		52	151	9	0
【データの読み取り】 96%の学校が概ね配慮している。 Aが4分の1、CDが4%と、概ね配慮できている。 各学年の〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫している学校は96%に達していた。	【分析考察】 各学校で、確実に指導計画が作成されていることが伺える。 授業の中で一番大切にしていきたい事項であり、ここからさらに発展、あるいは生涯教育へと向かっていくものにつながる。 殆どの学校で、〔共通事項〕を指導内容のよりどころとして表現と鑑賞の相互関連を図った題材の指導計画を作成したり、相互関連を図った授業構築をしていることが分かった。〔共通事項〕は、歌唱、器楽、創作、鑑賞の各活動を行うための支えとなるものであることから、〔共通事項〕の内容を、表現及び鑑賞の活動と切り離して単独に指導できるものではない。				
(2) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)、(3)及び「B鑑賞」の(1)の指導については、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにすること。		46	145	20	1
【データの読み取り】 90%の学校が概ね配慮している。 CDで10%と概ね配慮できている。 各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)、(3)及び「B鑑賞」の(1)の指導については、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにしている学校は90%に達していた。	【分析考察】 指導計画が適正に作成されていることが表れている。 特定の活動のみに偏らないよう年間指導計画を適切に立案し、表現及び鑑賞の能力を育む必要がある。 生徒の多様な実態を踏まえ、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生徒の興味・関心を引き出し、学習への意欲を喚起するため、特定の活動に偏ることのないよう配慮することが大切である。				
(3) 第2の各学年の内容については、生徒がより個性を生かした音楽活動を展開できるようにするため、表現方法や表現形態を選択できるようにするなど、学校や生徒の実態に応じ、効果的な指導ができるよう工夫すること。		43	141	28	0
【データの読み取り】 87%の学校が概ね工夫している。CDで13%と概ね配慮できている。各学年の内容については、生徒がより個性を生かした音楽活動を展開できるようにするため、表現方法や表現形態を選択できるようにするなど、学校や生徒の実態に応じ、効果的な指導ができるよう工夫している学校は87%に達した。	【分析考察】 実態に即した計画が、ほぼできていることが表れている。 個性をいかにしながらその状況に応じていく工夫をしている。そのことにより生徒それぞれの興味関心にも大きく差がでてしまう可能性もある。 生徒がより個性を生かした音楽活動を展開できるようにするため、表現方法や表現形態を主体的に活動できる工夫が大切である。指導のねらいを明確にした上で、学習の効果を十分に考慮して、多様な音楽活動を設けるよう配慮することが必要である。				

		A	B	C	D
(4) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、音楽科の特質に応じて適切な指導をすること。		24	116	67	5
【データの読み取り】 66%の学校が概ね指導している。 CDで3分の1 道德の時間などとの関連を考慮しながら、音楽科の特質に応じて適切な指導をしていると回答した学校は66%であった。	【分析考察】 音楽科として、関わる道德の内容について、指導が十分ではないと考える学校も多い。 具体的に道德と関連させる意識は持ちにくい。「学校における道德教育は、道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない」と規定されている。音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重することにつながり、また、音楽による豊かな情操は、道德性の基盤を養うものである。他教科と連携していくことも効果的である。				
2. 第2の内容の指導については、次の事項に配慮するものとする。					
(1) 歌唱の指導については、次のとおり取り扱うこと。					
ア 各学年の「A表現」の(4)のイの(ア)の歌唱教材については、以下の共通教材の中から各学年ごとに1曲以上を含めること。					
「赤とんぼ」 三木露風(みきろふう) 作詞 山田耕筰(やまだこうさく) 作曲		123	69	11	8
【データの読み取り】 91%の学校が概ね指導している。 ABで3分の2 各学年の「A表現」の(4)のイの(ア)の歌唱教材について、以下の共通教材の中から各学年ごとに1曲以上を含めることとされているが、共通教材の中から、歌唱教材として「赤とんぼ」を選択している学校は、91%であった。	【分析考察】 扱っていない学校は、少数である。 実生活の中でもよく耳にする曲である。指導にもつながり易い。 1年の教科書に掲載されていることもあり、大変多くの学校が使用教材として選択していた。				
「荒城の月」 土井晩翠(どいばんすい) 作詞 滝廉太郎(たきれんたろう) 作曲		71	80	39	17
【データの読み取り】 73%の学校が概ね指導している。 ABが半数を超える 各学年の「A表現」の(4)のイの(ア)の歌唱教材について、以下の共通教材の中から各学年ごとに1曲以上を含めることとされているが、共通教材の中から、歌唱教材として「荒城の月」を選択している学校は、73%であった。	【分析考察】 「赤とんぼ」と比べると、扱っている学校が減っている。 具体的に情景はつながっていくが、調性にも一因があるかもしれない。				
「早春賦」 吉丸一昌(よしまるかずまさ) 作詞 中田章(なかだあきら) 作曲		52	65	65	27
【データの読み取り】 56%の学校が概ね指導している。 Dが3分の1に近い 各学年の「A表現」の(4)のイの(ア)の歌唱教材について、以下の共通教材の中から各学年ごとに1曲以上を含めることとされているが、共通教材の中から、歌唱教材として「早春賦」を選択している学校は、56%であった。	【分析考察】 「荒城の月」よりさらに少なくなっている。 8分の6の拍子感、音域、歌詞の文体などが指導への難しさにつながり、取り扱う学校が少なくなるのかもしれない。 指導する学校がほぼ半数である事由を再調査する必要がある。				
「夏の思い出」 江間章子(えましょうこ) 作詞 中田喜直(なかだよしなお) 作曲		128	69	11	4
【データの読み取り】 93%の学校が概ね指導している。 ABで3分の2 各学年の「A表現」の(4)のイの(ア)の歌唱教材について、以下の共通教材の中から各学年ごとに1曲以上を含めることとされているが、共通教材の中から、歌唱教材として「夏の思い出」を選択している学校は、93%であった。	【分析考察】 まったく扱っていない学校が2%と少数である。 情景など実在のものが明確である 2, 3年上巻の教科書に詳しく掲載されていることもあり、大変多くの学校が使用教材として選択していた。				

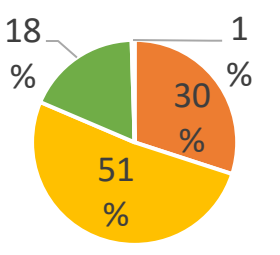
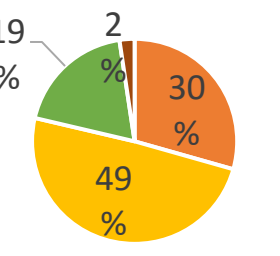
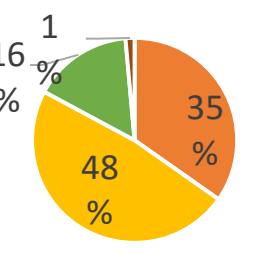
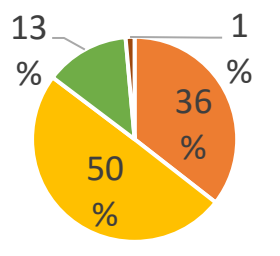
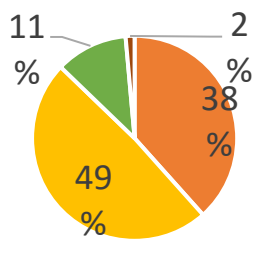
	A	B	C	D
<p>「花」 武島羽衣（たけしまはごろも）作詞 滝廉太郎作曲</p> <p>【データの読み取り】 98%の学校が概ね指導している。 Aの比率がとても高い 各学年の「A表現」の(4)のイの(ア)の歌唱教材について、以下の共通教材の中から各学年ごとに1曲以上を含めることとされているが、共通教材の中から、歌唱教材として「花」を選択している学校は、98%であった。</p> <p>【分析考察】 全く扱っていない学校がない。 季節感、1～3番への変化など親しみやすい。 2, 3年下巻の教科書冒頭に大きく掲載されていることもあり、大変多くの学校が使用教材として選択していた。名曲として歌い継いでいきたい。</p>	154	53	4	1
<p>「花の街」 江間章子作詞 團伊玖磨（だんいくま）作曲</p> <p>【データの読み取り】 57%の学校が概ね指導している。 ほぼ4分割 各学年の「A表現」の(4)のイの(ア)の歌唱教材について、以下の共通教材の中から各学年ごとに1曲以上を含めることとされているが、共通教材の中から、歌唱教材として「花の街」を選択している学校は、57%であった。</p> <p>【分析考察】 扱っていない学校が、曲の良さの割に多い。 曲のとらえ方がさまざまになる。共通教材として取り扱う学校と取り扱わない学校がほぼ半数であり、2分された結果となった。共通教材の中でも指導率が下位であり、否定的な回答の事由を調査する必要がある。</p>	56	62	58	32
<p>「浜辺の歌」 林古溪（はやしこけい）作詞 成田為三（なりたためぞう）作曲</p> <p>【データの読み取り】 88%の学校が概ね指導している。 ABで88% 各学年の「A表現」の(4)のイの(ア)の歌唱教材について、以下の共通教材の中から各学年ごとに1曲以上を含めることとされているが、共通教材の中から、歌唱教材として「浜辺の歌」を選択している学校は、88%であった。</p> <p>【分析考察】 この曲も予想された結果となった。 音域や旋律の変化、想像しやすい情景など指導に結びつきやすい 親しみやすいメロディーラインと抒情性あふれる曲想が取り上げる学校の多さにつながっている。</p>	100	82	21	5
<p>イ 変声期について気付かせるとともに、変声期の生徒に対しては心理的な面についても配慮し、適切な声域と声量によって歌わせるようにすること。</p> <p>【データの読み取り】 97%の学校が概ね配慮している。 ABがほとんどを占める イ 変声期について気付かせるとともに、変声期の生徒に対しては心理的な面についても配慮し、適切な声域と声量によって歌わせるようにしている学校は97%となった。</p> <p>【分析考察】 当然配慮すべき内容である。 歌唱の多くの場面で常に言葉がけをしている展開がみえてくる。 特に男子において声の変化が著しく、思うように声が出なかったり、声を出そうとして苦しくなったりすることがあり、この時期は成長の個人差が激しく不安を抱えていることも予想される。変声は健全な成長の一過程であり、誰もが体験することに気づかせ、変声に伴う不安や羞恥心を持つことが無いよう配慮や指導の工夫が望まれる。</p>	111	95	6	0
<p>ウ 相対的な音程感覚などを育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。</p> <p>【データの読み取り】 69%の学校が概ね指導している。 Dの22%は他に比べると高い ウ 相対的な音程感覚などを育てるために、適宜、移動ド唱法を用いている学校は36%となった。</p> <p>【分析考察】 全く指導していない学校が22%と高い割合になっている。 移動ド唱法は楽譜からは難しく、理論的要素の指導も必要となる場合もある。 適宜、移動ド唱法を用いることで、楽譜を見て音高などを適切に歌い相対的な音程感覚を育てることができる。 また、歌唱における読譜力を伸ばし、音と音とのつながり方をとらえ、フレーズなどを意識して表現を工夫する能力を養うことが可能であるが、指導に取り入れている学校は36%に留まった。</p>	18	58	88	47

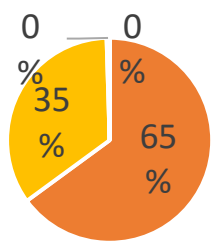
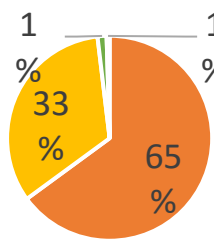
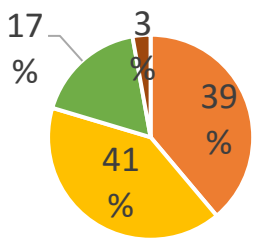
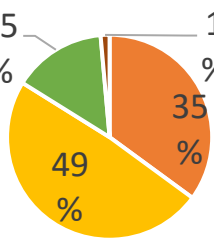
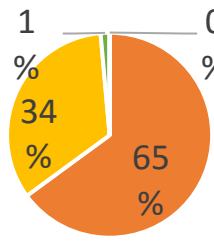
	A	B	C	D
<p>(2) 器楽の指導については、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお、和楽器の指導については、3学年間を通じて1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること。</p>	82	101	26	3
<p>【データの読み取り】 87%の学校が概ね指導している。 ABで87% 器楽の指導について指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用い、和楽器の指導は、3学年間を通じて1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫している学校は、87%に達した。</p>	<p>【分析考察】 和楽器導入後定着してきていると考えられる。我が国、郷土の伝統音楽についての認識やその意味が浸透してきている。 箏、三味線、尺八、篠笛、太鼓、雅楽で用いられる楽器など中学3年間のうち1種類以上の和楽器を扱い、表現活動を通して生徒が、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫することが大切である。音色や響き、奏法の特徴、表現力の豊かさや繊細さなどを感じ取ることで、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、我が国の音楽文化を尊重する態度を養うことに繋がっていくと考えられる。</p>			
<p>(3) 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導については、言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方についても配慮すること。</p>	60	101	46	4
<p>【データの読み取り】 76%の学校が概ね配慮している。 ABで76% 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導について、言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方について配慮しながら指導している学校は、76%であった。</p>	<p>【分析考察】 和楽器の指導が、年々定着して、配慮もできるようになってきている。 所作などからその雰囲気などを身に付ける指導の様子がうかがえる。 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導において、言葉と音楽との関係に注目し、姿勢や身体の使い方について配慮することは、我が国の伝統や文化を理解するための大切な基盤になっていく。</p>			
<p>(4) 読譜の指導については、小学校における学習を踏まえ、#bの調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1#b程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにすること。</p>	37	94	73	7
<p>【データの読み取り】 62%の学校が概ね指導している。 Bが半数に近い 読譜の指導については、小学校における学習を踏まえ、#bの調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1#b程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにする指導を行っている学校は、62%に留まった。</p>	<p>【分析考察】 学校によって違いがあることが表れている。 理論が理論として独り歩きしない指導の工夫が求められる。 小学校の学習を踏まえ、#bの調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1#b程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにするという読譜の指導について学習指導要領に示されているが、生徒が生涯にわたって音楽を楽しむために、無理のない程度と方法で慣れさせることが大切である。</p>			
<p>(5) 創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。</p>	22	73	91	25
<p>【データの読み取り】 45%の学校が概ね指導している。 CDで55% 創作の指導について、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視し、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させた指導を行っている学校は、45%という回答であった。</p>	<p>【分析考察】 創作指導については、どの項目にも課題が浮き彫りになっている。 創作への取り組みの難しさが表れている 生徒がその時の気持ちや気分にしたがって自由に音を出し、その即興的に出した音をよく聴いて、音の質感を感じ取ったり、音の長さ、高さ、強さ、音色などを意識して、音のつながり方を試すようにすることが大切である。音と音を重ねて短い旋律をつくらせたり、複数の音を重ねて和音をつくらせたり、反復・変化などを工夫して少しずつまとまりのある音楽をつくらせたりして、創作の楽しさや喜びを味わわせていくことが今後の課題である。</p>			
<p>(6) 各学年の「A表現」の指導に当たっては、指揮などの身体的表現活動も取り上げるようにすること。</p>	47	112	47	5
<p>【データの読み取り】 75%の学校が概ね達成している。 ABで4分の3 各学年の「A表現」の指導に当たって、指揮などの身体的表現活動を取り上げて指導している学校が、75%であった。</p>	<p>【分析考察】 身体表現も積極的に取り上げられるようになったと感じる。 日常的に授業で行われている活動である。 「指揮などの身体的表現」とは、指揮、舞踊、形式にとられない自由な身体的表現などのことである。学習指導要領には、歌唱、器楽、創作の各活動における表現を充実するため、創意工夫する学習の過程において指揮などの身体的表現活動を効果的に取り上げるよう配慮事項が示されているが、比較的多くの学校で取り入れられていることが分かった。</p>			

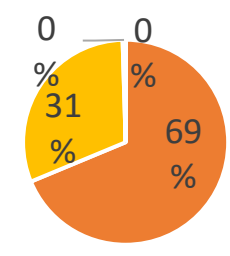
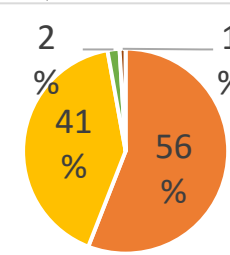
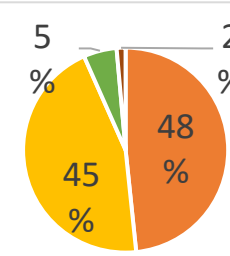
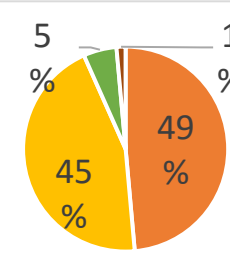

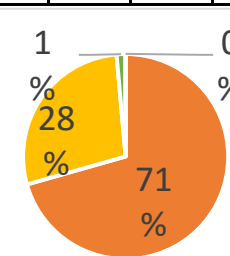
(7) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。


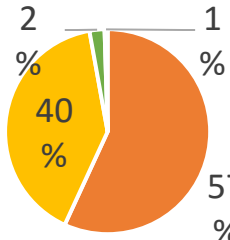

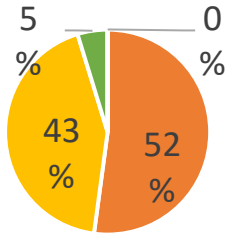

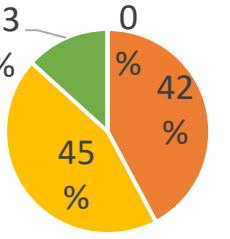

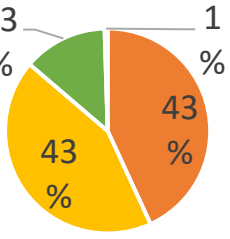

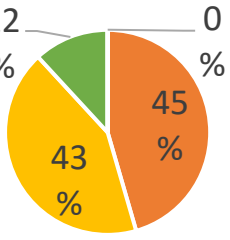
	A	B	C	D
ア 生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫すること。	67	125	18	0
<p>【データの読み取り】 91%の学校が概ね配慮している。 ABで91% 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たって、ア 生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫することをやっている学校は、91%に達した。</p> <p>【分析考察】 授業の形態について、様々な工夫がされていることがうかがえる。グループ活動やプリントなどの工夫によりこの数値が実現している。多くの学校で、生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫していることが分かった。生徒が音楽に関する言葉を用いて、音楽に対するイメージ、思い、意図などを相互に伝え合う活動を取り入れることによって、結果として音によるコミュニケーションを一層充実することに結び付けていくことになる。</p>				
イ 適宜、自然音や環境音などについても取り扱い、音環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせたりするなど、生徒が音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫すること。また、コンピュータや教育機器の活用も工夫すること。	14	71	100	24
<p>【データの読み取り】 41%の学校が概ね指導している。 Cが半数に近い 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たって、イ 適宜、自然音や環境音などについても取り扱い、音環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせたりするなど、生徒が音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫し、また、コンピュータや教育機器の活用も工夫している学校は、41%だった。</p> <p>【分析考察】 指導できていない学校が半数を超え、課題と思われる。まだ「音」としてのとらえを指導に取り入れることの難しさやハード・ソフト面の機器整備によるものがある。音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫している学校は半数にも満たなかった。コンピュータや教育機器の活用を工夫することも大切であるだろう。指導に当たって、自然音や環境音を意識して聴き、心地よさや不快な感じ、静寂や騒々しさといった生活の様々な場面での音環境を考えるなどして、生徒が音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるように配慮することが大切である。</p>				
ウ 音楽に関する知的財産権について、必要に応じて触れるようにすること。	24	92	72	18
<p>【データの読み取り】 56%の学校が概ね指導している。 Cが3分の1を超える 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たって、ウ 音楽に関する知的財産権について、必要に応じて触れるようにしている学校は、56%という回答があった。</p> <p>【分析考察】 この項目については、音楽科の役割が非常に大きいと考えることから、さらなる取組が必要と考える。「必要に応じて」という場面がどういう状況かを考えていきたい。授業の中で表現したり鑑賞したりする多くの楽曲について、それを創作した著作者がいることや、著作物であることを生徒が意識できるようにしたい。まだ半数という結果しか得られなかった。今後、必要に応じて音楽に関する知的財産権に触れることが大切である。</p>				
(8) 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、次に示すものを取り扱うこと。				
拍	105	98	7	0
<p>【データの読み取り】 97%の学校が概ね達成している。 CDで3% 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「拍」について取り扱っている学校は、97%に達していた。</p> <p>【分析考察】 良好な結果である。授業のさまざまな場面で意識的あるいは無意識的にあつかわれている。音楽の基礎となる拍の概念については、ほぼすべての学校で指導し、生徒に身に付けさせていることが判った。</p>				
拍子	118	88	5	0
<p>【データの読み取り】 98%の学校が概ね達成している。 CDで2% 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「拍子」について取り扱っている学校は、98%に達していた。</p> <p>【分析考察】 良好な結果である。授業のさまざまな場面で意識的あるいは無意識的にあつかわれている。拍子についても、音楽の基礎的な要素であり、ほぼすべての学校で取り扱っていることが判った。</p>				

	A	B	C	D
間	42	99	62	7
<p>【データの読み取り】 67%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「間」について取り扱っている学校は、67%であった。</p>	<p>【分析考察】 これからの課題である。我が国の伝統的な音楽の指導の際には、必ず触れなければならない指導事項である。67%という数値をどう評価するか。適切な単元で指導すべき事項であり、今後の課題である。</p>			
序破急	35	78	79	18
<p>【データの読み取り】 54%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「序破急」について取り扱っている学校は、54%であった。</p>	<p>【分析考察】 これからの課題である。音楽の構成、形式にかかわる指導事項であり、半数程度の学校が肯定的な回答を示した。46%の学校が否定的な回答を示しており、どのような題材、指導場面で取り扱えばよいか等についての研修が必要である。</p>			
フレーズ	110	91	10	0
<p>【データの読み取り】 95%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「フレーズ」について取り扱っている学校は、95%であった。</p>	<p>【分析考察】 良好な結果である。主旋律など一つのまとまりとして音楽を捉え指導する際に必須の指導事項である。歌唱、器楽における音楽表現の工夫を指導場面とする際に用いて指導を徹底できていると考えられる。</p>			
音階	89	100	21	1
<p>【データの読み取り】 89%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「音階」について取り扱っている学校は、89%であった。</p>	<p>【分析考察】 良好な結果である。器楽や創作の指導の際取り扱う指導事項である。音階といっても幅広く大きな概念であるため、取り扱う題材により適切に指導し身に付けていく必要がある。</p>			
調	72	98	40	1
<p>【データの読み取り】 80%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「調」について取り扱っている学校は、80%であった。</p>	<p>【分析考察】 さらなる充実を図りたい。読譜の指導については学習指導要領の指導計画の作成と取扱いの2(4)に示されている通り1#、1b程度をもった調号の楽譜の視唱、視奏に慣れさせるよう指導する必要がある。</p>			

	A	B	C	D
和音	63	108	38	1
【データの読み取り】 81%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「和音」について取り扱っている学校は、81%であった。	【分析考察】 さらなる充実を図りたい。 学習指導要領においては、声部の役割や全体の響きを感じ取ることが明記されており、適切な指導場面で取り扱う必要がある。			
動機	62	104	40	5
【データの読み取り】 79%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「動機」について取り扱っている学校は、79%であった。	【分析考察】 さらなる充実を図りたい。 創作や鑑賞の指導の際に取り扱える事項である。創作では、反復、変化、対照させたり、鑑賞では要素や構造を考察させたりする指導場面で、取り扱える事項である。			
Andante	73	101	33	3
【データの読み取り】 83%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「Andante」について取り扱っている学校は、83%であった。	【分析考察】 さらなる充実を図りたい。 3つの速度表示記号の中で取り扱う学校の割合が一番低い結果となった。とはいえ83%の学校で取り扱っており、題材に応じてその都度指導していく必要がある。			
Moderato	75	105	28	3
【データの読み取り】 86%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「Moderato」について取り扱っている学校は、86%であった。	【分析考察】 さらなる充実を図りたい。 取り扱う題材に応じてその都度速度表示記号について触れて指導していき、生徒に身に付けさせる必要がある。			
Allegro	81	103	24	3
【データの読み取り】 87%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「Allegro」について取り扱っている学校は、87%であった。	【分析考察】 さらなる充実を図りたい。 速度表示記号の中で一番取り扱う学校の割合が高かった指導事項である。Allegroの題材が多いことがデータに反映していると考えられる。			

	A	B	C	D
rit.	137	73	1	0
<p>【データの読み取り】 ほぼ100%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「rit.」について取り扱っている学校は、100%に達していた。</p>	<p>【分析考察】 歌唱や器楽指導の表現活動として身に付いていると考えられる。表現の工夫の中でも最も基礎的な表現方法であり、すべての学校が取り扱っている。</p>			
a tempo	137	70	3	1
<p>【データの読み取り】 98%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「a tempo」について取り扱っている学校は、98%に達していた。</p>	<p>【分析考察】 良好な結果である。 多くの学校が、前出のrit.と併せて指導していると考えられ、高い実施率となった。表現、鑑賞の指導の際に必ず押さえておきたい指導事項である。</p>			
accel.	82	86	37	6
<p>【データの読み取り】 80%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「accel.」について取り扱っている学校は、80%であった。</p>	<p>【分析考察】 r i t. と比べると20%の差がある。取り扱う題材におけるaccel.の記載の頻度によりこの差になったと考えられる。r i t. と対をなす重要な表現の工夫にかかわる指導事項であるためさらなる充実を図りたい。</p>			
legato	74	103	31	3
<p>【データの読み取り】 84%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「legato」について取り扱っている学校は、84%であった。</p>	<p>【分析考察】 さらなる充実を図りたい。 歌唱、器楽の表現の工夫における指導事項であり多くの学校で取り扱っていることが判った。Legatoを表現するための技能も指導する必要がある。</p>			
pp	137	71	3	0
<p>【データの読み取り】 99%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「pp」について取り扱っている学校は、99%に達していた。</p>	<p>【分析考察】 良好な結果である。 強弱記号は表現の工夫の最も基礎的な指導事項であり、ほぼすべての学校で指導が定着できている。</p>			

		A	B	C	D
ff		145	65	1	0
<p>【データの読み取り】 ほぼ100%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「ff」について取り扱っている学校は、100%に達していた。</p>	<p>【分析考察】 良好な結果である。 前出のppと対で指導できる事項であり、すべての学校で取り扱っていることが判った。生徒に身に付けるべきもっとも基礎的な事項であり、十分定着している。</p>				
dim.		118	87	4	2
<p>【データの読み取り】 97%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「dim.」について取り扱っている学校は、97%に達していた。</p>	<p>【分析考察】 良好な結果である。 強弱の変化を示す記号であり、表現の工夫の中でも重要な要素である。cresc.と併せて指導し定着させたい指導事項である。また、実技の指導の中で体験的に学ばせることが大切である。</p>				
D. C.		102	95	11	3
<p>【データの読み取り】 93%の学校が概ね達成している。 7%の学校が否定的な回答を示している。Aの回答が48%、Bの回答が45%となり、ほぼ同率という結果だった。</p>	<p>【分析考察】 良好な結果である。 指導教材の構成を指導する際に身に付けさせたい指導事項である。多くの学校で取り扱っているが、読譜の指導と併せて充実させたい事項である。</p>				
D. S.		102	94	11	3
<p>【データの読み取り】 94%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「D. S.」について取り扱っている学校は、94%に達していた。</p>	<p>【分析考察】 良好な結果である。 セーニョ記号と併せて指導し、身に付けさせたい事項である。楽曲の構成を指導する際に、取り扱う事項として定着させたい。</p>				
フェルマータ 		149	59	3	0
<p>【データの読み取り】 99%の学校が概ね達成している。 各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「フェルマータ」について取り扱っている学校は、99%に達していた。</p>	<p>【分析考察】 表現活動を通して、体得できていると考える。 教材における出現率の高さから、99%という数値が得られたと考えられる。音楽表現の工夫には欠かせない事項であり、今後も指導を定着させたい。</p>				

		A	B	C	D
テヌート 		120	85	5	1
【データの読み取り】 97%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「テヌート」について取り扱っている学校は、97%に達していた。	【分析考察】 表現活動を通して、体得できていると考える。様々な教材に出現しており、多くの学校で取り扱われている。対としてスタッカートも併せて再度指導する必要がある。				
三連符 		110	91	10	0
【データの読み取り】 95%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「三連符」について取り扱っている学校は、95%に達していた。	【分析考察】 表現活動を通して、体得できていると考える。取り扱う楽曲の中で適切に指導すべき事項である。拍の概念や読譜指導との関連を図りながら指導を充実させていく必要がある。歌曲「夏の思い出」の取り扱いの高さの影響もあると考えられる。				
二分休符 		89	94	28	0
【データの読み取り】 87%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「二分休符」について取り扱っている学校は、87%であった。	【分析考察】 概ね良好な結果である。楽譜教材の中で必要に応じて取り扱うことができる指導事項である。全休符との併せて指導し身に付けさせたい。13%の学校が否定的な回答を示しており、指導の充実が望まれる。				
全休符 		91	91	28	1
【データの読み取り】 86%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「全休符」について取り扱っている学校は、86%であった。	【分析考察】 概ね良好な結果である。二部休符同様に楽譜教材の中で適切に取扱い、指導を徹底したい。13%の学校が否定的な回答を示しており、指導の充実が望まれる。				
十六分休符 		96	90	25	0
【データの読み取り】 88%の学校が概ね達成している。各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、「十六分休符」について取り扱っている学校は、88%であった。	【分析考察】 読譜の指導の際取り扱うことができる指導事項である。単独で取り扱うのではなく、読譜指導の際体系的に指導する必要がある。また、表現活動を通して体験的に身に付けさせたい事項である。				

■全日本音楽教育研究会中学校部会 調査研究部 役員 ■

部長 角 康 宏 校 長 東 京 都 葛飾区立小松中学校
副部長 野 口 容 子 校 長 神奈川県 横浜市立南が丘中学校
副部長 志 村 誠一郎 校 長 神奈川県 横浜市立日吉台西中学校
副部長 渋谷 恭 子 指導教諭 東 京 都 狛江市立狛江第三中学校

発 行 平成28年3月1日

編集・発行 全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究部

印 刷 所 大盛印刷株式会社

東京都豊島区雑司が谷 1-48-17

☎ 03-3971-1246 Fax 03-3988-2945